

「歯は命」

歯科医療の危機突破へ 10・28 決起集会開催

歯科医療崩壊押しとどめよう

全国の運動以外に道はない

よく噛んで、食べ、歯や口腔ケアをきちんと行うことが、認知症や誤嚥性肺炎の予防につながる。健康づくりや療養・介護の改善に役立つ。歯は命であるとして、10月28日、東京・砂防会館で「歯は命 歯科医療危機突破10・28決起集会」を開催した。集会では、「すべての国民が、いつでも、どこでも、良い歯科保険医療を受けられることが必要」として「歯科保険の利く範囲を広げよう」、「保険で良い治療ができるよう歯科診療報酬を引き上げよう」など6項目の要望を含む決議（5面に全文）を採択した。

0万円以下だ。原価割れ不採算の入れ歯点数に原因がある。そのため8割の自営技工士が「転職したい」、「離職したい」という意向をもっている」など歯科医療の窮状を報告した。

全国保険医団体連合会など5つの実行団体による「歯は命」歯科医療危機突破10・28決起集会」には、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、医師 保団連歯科代表は、「国民などの医療関係者、患者の歯科医療要求は切実にならなければならない。しかし、歯

科医師は、歯科診療報酬点数の長年にわたる据え置き、通知行政によるしぼりの多い保険請求、自殺者を出すような厳しい指導・監査などで国民・患者の要望に応えたくても心えられない状況にある。歯科医師に「生まれ変わる」としたら今の仕事を再び選びますか」との設問に36・8%が「いいえ」と回答している」とした。

また、歯科医師の小澤力さんは大阪府をはじめ33市9町1村の地方議会に向け「保険で良い歯科医療の実現を求める意見書」採択の運動を報告した。閉会の挨拶で馬場淳保団連副会長は「医療関係者が一同に会し、歯科医療の崩壊を押しとどめよう」という試みはかつてなかった。新たなスタートとして全国に広げよう。

健康格差にも連鎖している」と述べた。



「歯は命」歯科医療危機突破決起集会のもよう

また「自営歯科技工士の過労働時間は76時間を超え、約3割が年収25万円以下だ。原価割れ不採算の入れ歯点数に原因がある。そのため8割の自営技工士が「転職したい」、「離職したい」という意向をもっている」など歯科医療の窮状を報告した。

その上で、宇佐美代表は「口腔ケアの重要性が社会的にも認知されるようになった。集会を起爆剤として運動を大きく発展させよう」と訴えた。この後集会は来賓挨拶、メッセージ紹介、有楽町マリオン前街頭宣伝の報告、リレートークなどが行われた。リレートークの中で、歯科衛生士の小玉奈緒美さんは、「重篤な触になる子どもが多くなった。経済的に困難な家庭に多く見られる。経済格差が

改善を求める運動以外に道はない。必ず変えることができる」と述べた

歯科医自殺事件で緊急抗議集会

保団連は10月28日、東京・砂防会館で「歯科保険医自殺事件緊急抗議集会」を開催し、全国から歯科医師など223人が参加した。「監査まがいの行き過ぎた個別指導や、人権を無視した個別指導などは許されないとし厚労省による真相の究明、事件に関与した関係者の処分、指導・監査の抜本改善など4要求の実現を求める決議を上げた。



19万1,810通の署名を積み上げた10・28集会